



狂犬病について

2024年 8月5日

森田小児科医院

【説明動画】*右QRコード：オンライン診療前にご覧ください

<https://app.heygen.com/share/feebb1ea8a5d4ae38328396672c7e5d0>



【概要】リッサウイルス属 狂犬病ウイルス感染症

推定死亡数は世界で55,000例/年 インド20,000例 アフリカ24,000例

症例の99%はイヌ咬傷 15歳以下が約40%を占める

1957年以降は日本国内での発生なし 感染動物も報告なし

輸入例は、1970年に1例（ネパール）2006年に2例（フィリピン）2020年に1例（フィリピン）

【発生国】https://apps.who.int/neglected_diseases/ntddata/rabies/rabies.html

【感染経路】感染動物による咬傷・擦過傷

【機序】末梢神経を介し中枢神経に侵入、増幅して全身へ（次頁図）

【潜伏期間】1-3ヶ月（1年を超えることもある）

【症状】発熱、創部の痛み・感覚鈍麻から始まる 発症すれば致死率ほぼ100%（次頁図）

【曝露後予防 PEP post-exposure prophylaxis】

PrEPあり：2回ワクチン接種（0, 3 day）

PrEPなし：4回ワクチン接種+狂犬病免疫グロブリン

【曝露前予防 PrEP pre-exposure prophylaxis】

*曝露後に狂犬病免疫グロブリン注射が不要になる事がメリット

【受傷リスク評価 WHOカテゴリ】

曝露後カテゴリ		PEPワクチン	PEP免疫グロブリン
1	動物に触れる、餌をやる、無傷の皮膚を舐められる	×	×
2	着衣の無い皮膚を咬まれる+出血はなく、擦り傷程度	○	×
3	咬傷または引っ搔き傷で出血を伴う 唾液との粘膜、傷との接触	○	○

【発病阻止】

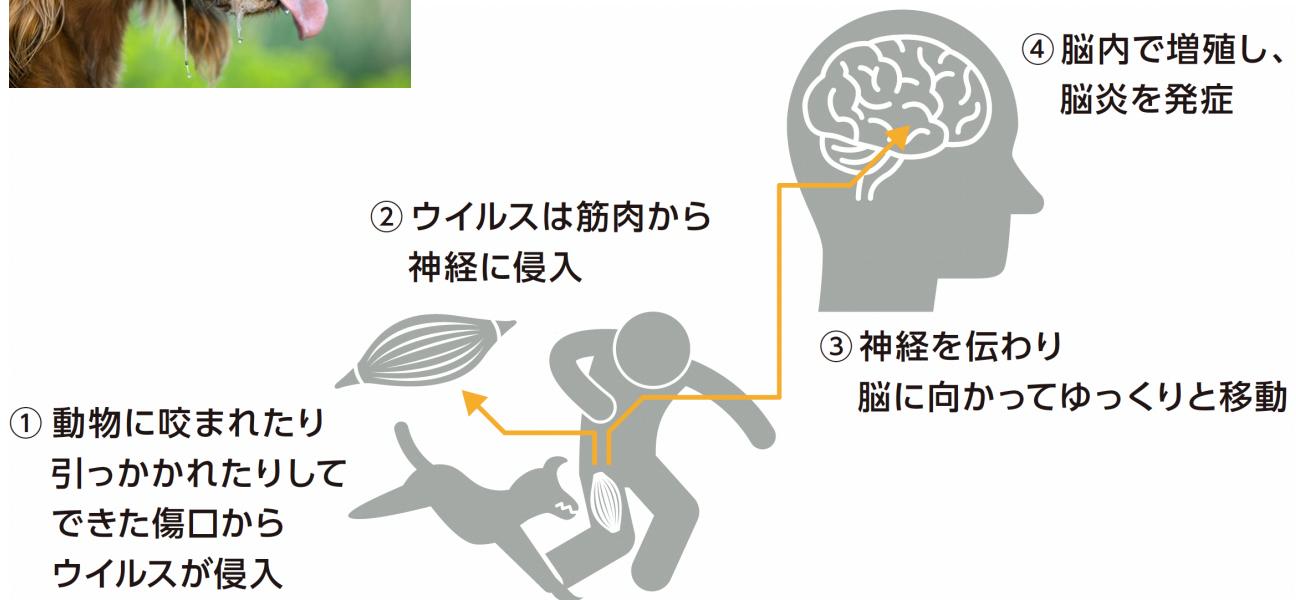
- I. 狂犬病の恐れのある動物に咬まれたり、傷口をなめられた時は、すぐに傷口を石鹼と流水でよく洗ってください。約15分間洗い続けることが勧められています。
- II. 予防接種【PEP】をしていたとしても医療機関を受診してワクチン接種が必要です。

【狂犬病ワクチンのbooster】

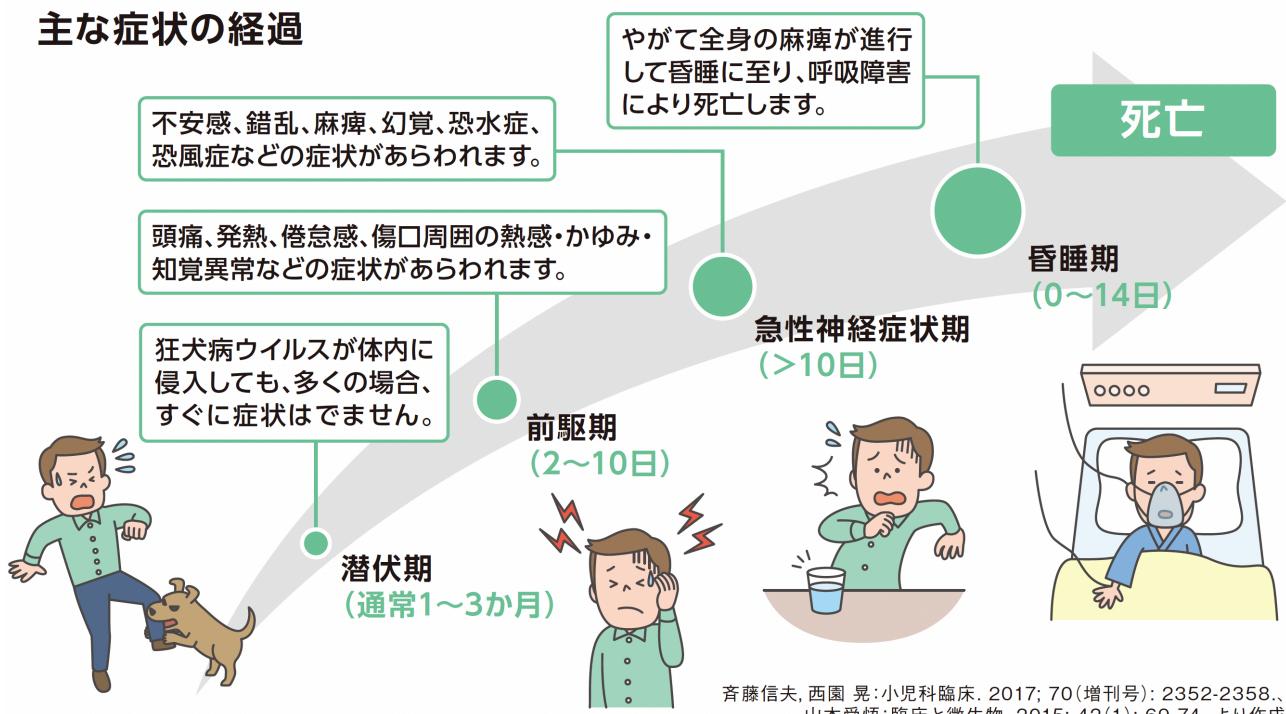
最初の3回接種を終えると、5-21年経過しても追加接種により良好な反応が得られる抗体価が検出感度以下になっていても同様



動物検疫官を除く一般的な旅行者・赴任者にはboosterは不要



主な症状の経過



斎藤信夫, 西園 晃: 小児科臨床. 2017; 70(増刊号): 2352-2358.、
山本舜悟: 臨床と微生物. 2015; 42(1): 69-74. より作成

【参考文献・ホームページ】

1. Suwansrinon K. Vaccine 24 (18): 3878- 3880, 2006
2. Rabies vaccines: WHO position paper - 2018
3. ラビピュール筋注用(狂犬病ワクチン)を接種される方へ GSK